

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日(当事業年度の中間配当の予定はございません)
公告の方法	電子公告により、当社ホームページ(http://www.fujipream.co.jp/)に掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合には、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話0120-094-777(通話料無料)

ご注意

- 1 株主様の住所変更、買取請求、その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 3 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

フジプレミアムと社会を結ぶ情報誌

PRE [プレ]

フジプレミアムの「プレ」は「先駆ける」、「アム」は「存在」という意味が込められています。この「プレ」をタイトルにした株主通信は、株主の皆様にも適切な経営情報を先駆けてお届けし、フジプレミアムと社会との関わりを分かりやすくお伝えするとともに、当社が誇る技術や将来性などをご紹介してまいります。



特集

市場開拓に向けた営業活動

営業体制を強化し、ビジネスの広がりを生み出す

不可能への挑戦

フジプレミアムは「不可能への挑戦」を掲げ、未来を切り開く研究開発型企业です。

経営ビジョン

フジプレミアムは、精密貼合技術を活かし、新たな価値を創造する素材メーカーを目指します。



社名への誓い

"FUJI(不二)" 2つにあらず、
"pre" 先駆けて、"am" 存在する企業でありたいと、
常に「不可能への挑戦」を心がけています。

経営理念

「人」は「財」なり、「財」は「人」作りなり
創意、継続は大なる「財」なり
自然は大なる「恵」なり。
全てに対して大なる「感謝」

高度情報化
社会

地球環境
共生社会



光都工場

光都PV工場

100年先の暮らしを照らすため、自らに与えられた使命を果たす。
「共存・共生・共産」の理念で、住みよい社会づくりを目指します。

既存事業の堅調な推移を得ながらも、
更なる研究・技術開発、販売活動で新規受注を目指す。

株主・投資家の皆様には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素よりフジプレミアムグループの事業につきまして格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第33期(平成27年3月期)年次報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社グループを取巻くビジネス環境は、円安による原材料価格の上昇や、新興国での景気減速等が懸念されますが、国内では、金融対策や成長戦略の実施を背景に、景気上昇への期待が高まっております。

このような状況の中、精密貼合及び高機能複合材部門におきましては、新型ディスプレイ市場の拡大、特に車載や教育・医療分野等、新たな業務用の用途開発が見込まれるタッチパネル市場の需要増加、LEDビジネスの成長等引き続き堅調に推移するものと考えております。当社グループといたしましては、このような需要に応え、競争力をつけるべく、更なる革新的な研究開発・生産技術開発・販売活動を行い、新規ビジネスの獲得、新たな受注の拡大に繋げてまいりたいと考えております。また、環境ビジネス部門におきましては、再生可能エネルギーの固定価格買取制度における買取価格の下落、並びに制度の見直しにより、産業用メガソーラー市場の縮小が見込まれます。このような状況に対処すべく、当社独自の競争力のある生産ラインを活かして、付加価値やコスト競争力のある製品の供給力の拡大を図り、住宅用市場への注力、並びにOEM品の生産供給拡大、追尾型太陽光発電システムによる新規市場の開拓等により、業績の伸長を目指したいと考えております。

株主の皆様には、今後と変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 松本 倫長



営業の新体制がスタート。

顧客対応力や、市場開拓力をさらに強めていく。



フジプレミアムは今、「機能性素材の複合化」というキーワードを掲げて、ものづくりの高付加価値化や、新たな市場の開拓に取り組んでいます。その実現のためには、精密貼合という独自技術の追求はもちろん、営業担当者ひとりひとりによる情報収集や提案活動、そして、お客様への迅速かつ細やかな対応が欠かせません。今回の特集では、営業体制の強化や新規ビジネスの創造に向けた取り組みをご紹介します。

～営業体制を強化し、ビジネスの広がりを生み出す～

「営業本部」を新設し、営業体制を刷新。

これまで、事業部ごとの営業担当者、東京を中心に新規開拓に取り組む市場開拓営業部、そして、グループ会社として販促活動を担うフジプレ販売株式会社が、それぞれ個別に営業活動を行ってきました。この度フジプレミアムは、営業体制の強化を図るべく、これらの活動を統括する機能を持った営業本部を新たに設置しました。営業の効率化を実現するとともに、お客様の情報や市場の情報を集約・共有し、組織としてさらに有効に活用していくことが可能になると考えています。

西日本と東日本、それぞれに営業拠点を。

さらに、営業本部の新設に伴い、これまで市場開拓営業部として活動してきた営業部隊を東京営業本部とし、大阪にも新たに大阪営業本部を開設、2015年5月から稼働を開始しました。東京と大阪という日本を代表する2大都市をベースに、東と西にそれぞれ営業拠点を置くことで、エリア

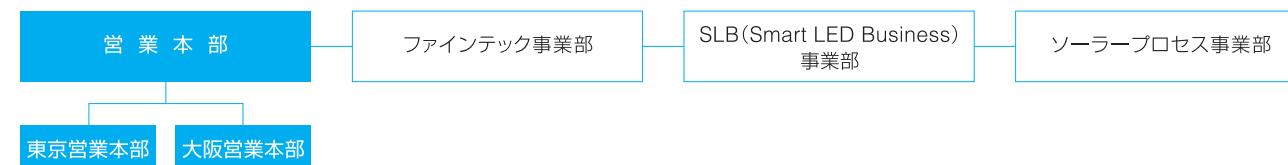


左:東京営業本部、右:大阪営業本部

営業を強化し、各地域のお客様により迅速かつ細やかに対応できるように取り組んでいきます。

現在、日本国内の本社の約70%は関東に集中していると言われていますが、関西をはじめ中京などのエリアでも、ものづくりは盛んに行われており、そこには私たちの技術が必要とされているお客様の潜在的なニーズが大きいと見込まれます。こうした地域の中へ営業本部が入り込んでいき、現地の情報を細やかに収集して、営業本部がそれを集約することで大きなシナジー効果を生み出し、全国的な営業戦略にもつなげていきたいと考えています。(次頁につづく)

■ 営業の新体制図



市場開拓に向けた営業活動

～営業体制を強化し、ビジネスの広がりを生み出す～



お客様とともに、新たなニーズを探り、市場を切り拓いていく。

フジプレアムが独自の精密貼合技術を活かして貢献しているディスプレイやタッチパネルなどの分野は、非常に先端的な領域であると同時に、市場の変化がとてダイナミックな分野でもあります。そこでは新しいニーズや活用法が次々と生まれ、人々のライフスタイルやワークスタイルを変革するような新製品が続々と登場しています。当然、新規のお客様だけでなく、長年お付き合いをさせていただいている既存顧客の皆様も、常に新しいものづくりに取り組んでいます。そんな中、フジプレアムの営業担当者は、お客様との緊密なコミュニケーションを図りながら、新しい情報をタイムリーにキャッチし、自社の独自技術をお客様に役立てていただくための提案を行っています。

たとえば、私たちが得意とする技術のひとつに大型ディスプレイの精密貼合がありますが、現在さまざまな分野で大型タッチパネルやデジタルサイネージの活用が進んでいます。医療用のモニターやアミューズメント機器のディスプレイ、タッチパネル化が進む車載ディスプレイ、また、

2020年の東京オリンピック開催や外国人観光客の増加に向けた情報表示端末としてデジタルサイネージに再び注目が集まっており、こうしたニーズの高まりに合わせて、積極的な営業活動に取り組んでいきたいと考えています。



LEDの可能性に挑む、SLB事業部が誕生。

さらに、2015年1月、新たな事業部としてSLB(Smart LED Business)事業部が誕生しました。前号のPREでもご紹介しましたが、フジプレアムでは2014年6月から日亜化学工業株式会社様とともにCOF(Chip On Film)の生産を行っています。従来のような固い基盤ではなく、フィルム状のやわらかい基盤にLED用ダイスを直接実装できる



COFは、曲面などにも対応しやすく、LEDの新しい市場を切り拓くことができると見込まれています。本格的な生産開始から約1年、さまざまな課題をひとつひとつクリアしながら、コンスタントに高歩留まりを達成することができています。

今後、LEDを用いた応用製品のさらなる展開が期待できることから、新事業部としてSLB事業部を立ち上げるに至りました。フジプレアムにとって、LED分野へは新規参入となります。これからのフジプレアムの主力事業のひとつとして、大きく成長させていきたいと考えています。



日亜化学工業株式会社様との生産を開始したCOF

新しいビジネスが、新しい技術を生み、それをまた、次のビジネスにつなげていく。

SLB事業部の誕生は、まさにフジプレアムがこれから目指すべき道を象徴するものです。これまで培ってきた技術をLEDに応用することで、COF生産という新しいビジネスが生まれました。そして、COFの生産に取り組む中で、現場においていろいろな経験を蓄積させることができ、新しい加工技術なども生まれました。その新しく得た技術を活かして、ものづくりの新たな展開を考えていくことが、次のステップです。

新技術をもとに営業が市場を開拓し、その市場でまた新たな技術を育む。こうした循環型のものづくりによって、ビジネスのフィールドを広げていく。フジプレアムが今掲げている「機能性素材の複合化」という言葉にも、こうした取り組みによってものづくりの幅を広げていきたいという思いが込められています。これからも、技術と営業がお互いに価値を高め合いながら、より一層の成長を目指していきたいと考えています。

写真左より

- 執行役員常務 営業本部 東京営業本部長 森田 晃史
- 執行役員常務 営業本部 大阪営業本部長 萱野 耕治
- 取締役 営業本部 統括営業本部長 兼 フジプレ販売(株)代表取締役社長 名村 信彦
- 代表取締役社長 松本 倫長
- 執行役員 SLB事業部 事業部長 安田 康良
- SLB事業部 設備関連担当部長 大塚 寛樹



世界遺産姫路城マラソン2015

今年2015年2月22日(日)、姫路市初となるフルマラソン大会が開催されました。大会コンセプトを「『歴史と文化の継承』をキーワードに、市民をあげてサポートするマラソン大会」とし、ランナー、大会を支えるボランティア、沿道で応援する方々など全ての参加者が参加して良かった、来年も参加したいと思っていただけるマラソン大会にしたいという企画主旨から開催された大会です。



フジプレミアムは地元企業として協力させていただきたいという思いから、オフィシャルスポンサーを務めさせていただきました。また、社内・社外関係者から15名がランナーとして、社内から14名がボランティアとして、マラソン大会に参加させていただきました。ボランティアによるマラソン運営はランナーや沿道で応援する方々とのふれあいを楽しみながら、マラソン大会を大成功に終えることができました。マラソン運営スタッフ、ランナー、ボランティア、沿道での応援する方々、地元市民の皆様がマラソン大会の成功に向けて、一丸となることができた結果だと実感しております。

フジプレミアムは今後もこのような機会を大切に、皆様の暖かいご支援・ご協力を賜りますよう地域貢献を続けて参ります。



フジプレミアムから参加したボランティアスタッフ

たくさんのランナーや応援者が参加し当日は大きな賑わいになりました!



開催日時：2015年2月22日(日)
参加人数：10,000人
スタート時刻：午前9時
主催：世界遺産姫路城マラソン実行委員会

かんべえくん、しろまるひめも応援しました!



姫路城マラソン公式キャラクター しろまるひめ



黒田官兵衛イメージキャラクター かんべえくん

トピックス Topics

TOPICS 01 会社案内リニューアル

昨年度開始したLED部材の受託生産をはじめとする新規事業、大阪営業本部開設による営業組織拡大など、新体制になったフジプレミアムの会社案内のリニューアルを行いました。



TOPICS 02 今年度の入社式を実施

平成27年度の入社式を3月26日に行いました。松本社長からの激励の挨拶に対して、期待と不安が入り交じる新入社員18名の代表より「『仕事に対する情熱』と『不可能への挑戦』を胸に抱き、会社の発展に貢献したい」と述べました。



2015 1 January

3 March

5 May

TOPICS 03 阪神甲子園球場の1塁側内野フェンスに広告掲載

今年度も引き続き、阪神甲子園球場の1塁側内野フェンスに「フジプレミアム」の広告を掲載いたしました。高校野球やプロ野球中継の際はぜひご注目ください。



TOPICS 04 第66回姫路お城まつりへの広告協賛

例年8月に開催されていたお城まつりが、今年はGW5月2日~5月5日に開催されました。姫路城グランドオープン記念として姫路城3Dプロジェクションマッピングが実施され、例年以上にお城まつりが賑わいました。



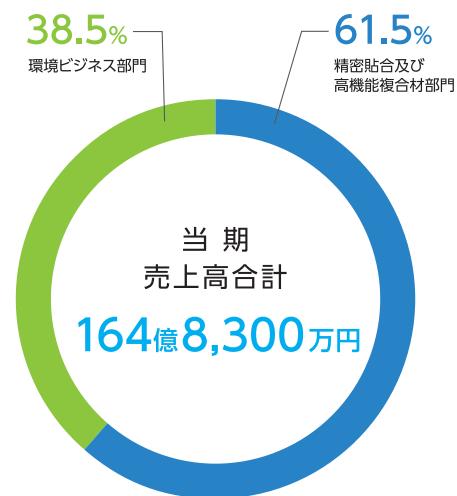
セグメント情報 Segment Information

当期純利益8億700万円確保

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府と日銀による経済対策及び金融政策を背景に、緩やかな回復基調で推移したものの、消費税の引上げによる個人消費の落ち込みの影響や、円安による原材料価格の上昇等先行きは不透明な状況となっております。

このような状況の中、当社グループの主力事業である精密貼合及び高機能複合材部門におきましては、タッチパネルやLED関連の市場が拡大し、堅調に推移いたしました。一方、環境ビジネス部門におきましては、電力会社による系統連系接続の回答保留と固定価格買取制度の運用見直しの影響を受け、市場環境が厳しさを増しております。

この結果、当連結会計年度における当社グループの連結業績は、売上高16,483百万円(前年同期比7.6%増)、営業利益1,284百万円(同10.4%減)、経常利益1,401百万円(同7.2%減)を計上し、当期純利益は807百万円(同0.1%減)となりました。



精密貼合及び高機能複合材部門



第33期売上高
101億3,200万円

営業利益8億4,100万円

当部門につきましては、国内外におけるディスプレイ市場は、4Kテレビや裸眼3D等の高付加価値タイプのディスプレイ市場が成長し、堅調な推移を見せております。また、タッチパネル市場におきましては、産業分野や教育分野、そしてアミューズメント分野等に使われる用途が広がっております。しかしながら、新興国での生産技術の進化や低価格品の台頭等、世界市場での競争は激しさを増しております。このような市場の変化の中、精密貼合技術やダイレクトボンディング技術を活用し、新規生産設備の導入による生産の高度化を推進、更に、独自の技術を活かしLED関連事業にも参入、新規ビジネスへの取組みを強化し、実績を上げてまいりました。

この結果、売上高10,132百万円(前年同期比18.4%増)、営業利益841百万円(同25.4%増)となりました。

環境ビジネス部門



第33期売上高
63億5,000万円

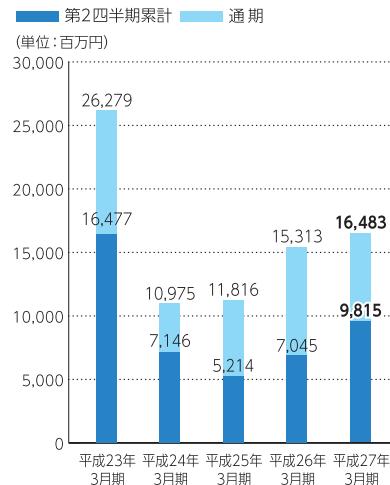
営業利益4億2,500万円

太陽電池の国内市場は、再生可能エネルギーの固定価格買取制度の施行により、当連結会計年度前半までは、中小規模からメガソーラーまで、産業用の需要が幅広く拡大し、超軽量太陽電池モジュールが、他社とは差別化された商品として受け入れられ、販売量の増加に貢献いたしました。しかしながら、平成26年9月、電力各社より再生可能エネルギー発電設備の系統連系接続申込みに対して、回答保留する旨が発表され、また、固定価格買取制度の運用見直しと買取価格の低下により、市場環境が急激に厳しさを増しております。このような市場の動きに対応すべく、超軽量太陽電池モジュールの更なる拡販、追尾型太陽光発電システムの販売、住宅用発電システム販売の強化等の施策を実施してまいりました。

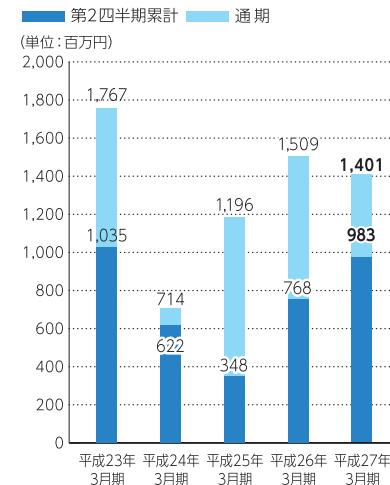
この結果、売上高6,350百万円(前年同期比6.0%減)、営業利益425百万円(同41.7%減)となりました。

財務ハイライト Financial Highlight

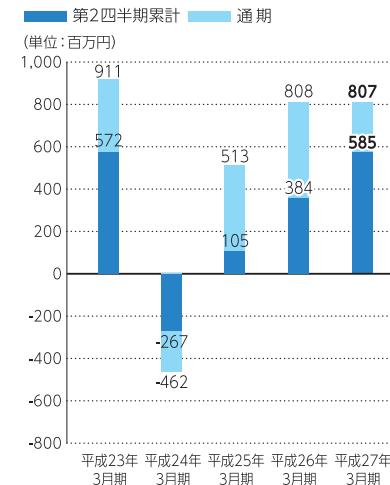
売上高



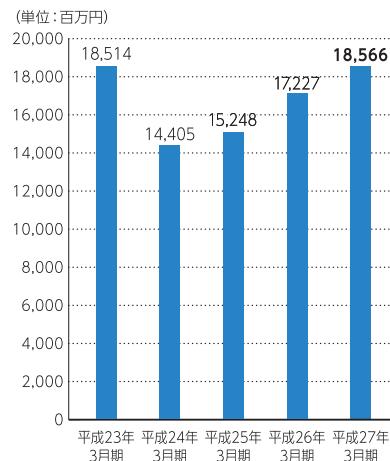
経常利益



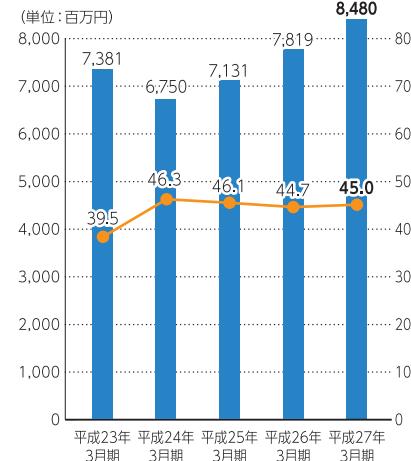
純利益



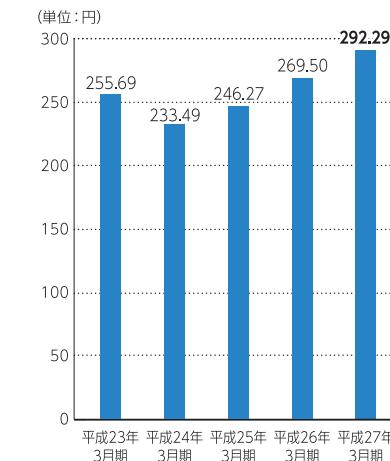
総資産



純資産・自己資本比率



一株当たり純資産



連結財務諸表
Financial Statements

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	当期 (平成27年3月31日)	前期 (平成26年3月31日)
流動資産	12,250,899	10,915,584
現金及び預金	6,872,197	3,708,690
受取手形及び売掛金	2,556,828	4,542,343
商品及び製品	1,345,865	967,737
仕掛品	307,806	765,847
原材料及び貯蔵品	770,663	706,622
その他	404,336	241,909
貸倒引当金	△6,797	△17,566
固定資産	6,315,565	6,311,955
有形固定資産	5,909,371	5,903,796
無形固定資産	9,408	16,013
投資その他の資産	396,786	392,145
資産合計	18,566,465	17,227,540

(単位:千円)

科目	当期 (平成27年3月31日)	前期 (平成26年3月31日)
流動負債	6,198,432	7,463,187
支払手形及び買掛金	1,279,708	2,310,257
短期借入金	2,250,000	2,700,000
1年内返済予定の長期借入金	2,121,220	1,632,013
未払法人税等	308,311	459,008
賞与引当金	14,718	15,563
その他	224,473	346,344
固定負債	3,887,860	1,944,423
長期借入金	3,712,240	1,770,000
その他	175,620	174,423
負債合計	10,086,292	9,407,611
株主資本	8,301,261	7,664,812
資本金	2,000,007	2,000,007
資本剰余金	2,440,803	2,440,803
利益剰余金	4,724,340	4,087,891
自己株式	△863,890	△863,890
その他の包括利益累計額	50,890	36,266
少数株主持分	128,021	118,850
純資産合計	8,480,173	7,819,928
負債純資産合計	18,566,465	17,227,540

連結損益計算書

(単位:千円)

科目	当期 (平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで)	前期 (平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで)
売上高	16,483,272	15,313,369
売上原価	14,085,355	12,705,920
売上総利益	2,397,917	2,607,448
販売費及び一般管理費	1,113,718	1,174,385
営業利益	1,284,198	1,433,062
営業外収益	157,988	118,561
営業外費用	40,870	41,745
経常利益	1,401,315	1,509,878
特別損失	13,228	49,039
税金等調整前当期純利益	1,388,087	1,460,838
法人税、住民税及び事業税	525,512	614,032
過年度法人税等	△21,810	—
法人税等調整額	67,315	13,915
少数株主損益調整前当期純利益	817,069	832,890
少数株主利益	9,170	24,220
当期純利益	807,898	808,669

連結包括利益計算書

(単位:千円)

科目	当期 (平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで)	前期 (平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで)
少数株主損益調整前当期純利益	817,069	832,890
その他の包括利益	14,624	26,643
その他有価証券評価差額金	23,026	6,108
為替換算調整勘定	△8,401	20,534
包括利益	831,694	859,534

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	当期 (平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで)	前期 (平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	1,736,112	△1,227,024
投資活動による キャッシュ・フロー	△361,766	△293
財務活動による キャッシュ・フロー	1,797,554	909,536
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△8,393	1,686
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	3,163,506	△316,095
現金及び現金同等物の 期首残高	3,658,690	3,974,785
現金及び現金同等物の 期末残高	6,822,197	3,658,690

Profile

会社概要

(平成27年3月31日現在)

商号	フジプレミアム株式会社 Fujipream Corporation(英)
本社所在地	兵庫県姫路市飾西38番地1
設立	昭和57年4月14日
代表者	代表取締役社長 松本倫長
資本金	2,000百万円
事業内容	精密貼合及び高機能複合材関連事業 環境ビジネス関連事業 他
従業員数	267名(連結、臨時雇用を含む)
営業所及び工場	本社 姫路工場 播磨テクノポリス光都工場／研究所／PV工場 東京オフィス
連結対象となる子会社	フジプレ販売株式会社(設立:平成13年4月) 上海不二光学科技有限公司(設立:平成15年9月)
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行／みずほ銀行

取締役及び監査役

(平成27年3月31日現在)

代表取締役会長	松本 實藏
代表取締役社長	松本 倫長
常務取締役	澁谷 尚
取締役	名村 信彦
取締役	木村 裕史(社外)
常勤監査役	松本 毅(社外)
監査役	瀧元 一(社外)
監査役	松原 徳文(社外)

株式の分布状況

(平成27年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数	105,000,000株
発行済株式の総数	29,786,400株
株主数	4,144名

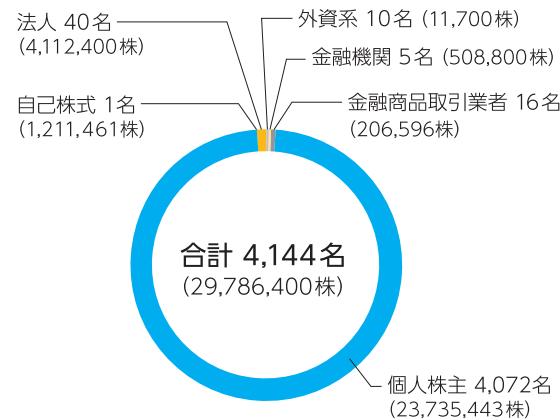
大株主の状況

(平成27年3月31日現在)

松本 實藏	13,130,700株
松本 倫長	2,441,400株
松本 庄藏	1,854,000株
東レ株式会社	1,560,000株
フジプレミアム株式会社	1,211,461株
旭硝子株式会社	936,000株
リントック株式会社	936,000株
ジェイアンドエム株式会社	475,500株
松本 春代	360,000株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	350,100株

株式分布状況

(平成27年3月31日現在)



HARIMA - TAMBOU

播磨探訪

平成27年3月27日、昭和の大修理から45年ぶりの修復作業となる、平成の大修理が完了した姫路城が、ついにグランドオープンしました。お城を全面解体して内部の修復が行われた昭和の大修理とは違い、今回は大天守の壁の塗替えや、破損瓦の取替えなど、外観中心の修復が行われました。さらに美しくなった純白の姿をひと目見ようと、なんと1日に約1万5000人も観光客が訪れた日もあるそうです。400年の歴史を持つ姫路城は、戦や近代の震災に遭うこともなくほぼ築城当時の姿のまま保存されています。それに加えて、細かな修復が人の手によって幾度も行われてきたおかげで、時代を経てもなお美しい姿を保っているのです。夏空の下で輝く純白の天守閣を、ぜひご覧になってみてはいかがでしょうか。

◎姫路城の魅力を再発見!

別名「白鷺城」と呼ばれる、美しい純白の外観が姫路城の魅力のひとつ。城壁だけでなく屋根までも白く塗られていることが特徴です。平成の大修理で、カビで黒ずんだ屋根も漆喰の白に染まり、本来の姿が蘇りました。



◎和船から姫路城をのぞむ 遊覧イベントも

グランドオープンを祝して和船の運航が開始されました。姫路城内堀の船上から、お城をぐるりと満喫。姫路城でゆったりと過ごす、おすすめのイベントです。

〈乗船受付〉姫路城武者溜り 5月11日(月)～11月29日(日)の土日祝運航

姫路城TOPICS



平成の大修理を終えた完成記念式典では、ブルーインパルスによる華やかな祝賀飛行が披露されました。



第66回姫路お城まつりでは、3Dプロジェクトアクションマッピングショーが開催。3日間で約19万人の観光客が訪れました。



姫路城に新たな楽しみ方が登場。城内にあるポイントにスマートフォンやタブレット端末をかざすと、現存しない建物や武士がCGで再現され、当時の風景が蘇ります。

※写真はイメージです

vol.29

平成の大修理がついに完了!

5年半ぶりのお披露目 日本が誇る 姫路城 グランドオープン

